KOBELCO

金属／建物解体／産廃／林業 》 現場を支えるコベルコ機

コベルコ建設機械ニュース別冊

環境建機リポート

Vol.06
建物解体編

住宅街での建物解体でもコベルコ機が大活躍！

建物解体
building demolition

株式会社山田産業
「多様な解体現場で頼れる操作性と、iNDrの静音性で顧客層を拡大」

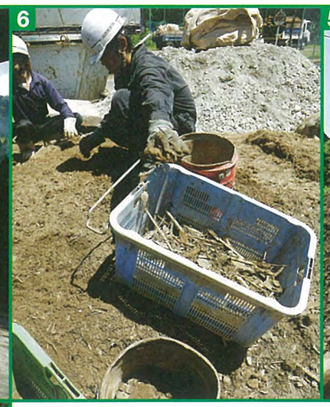
鳥取県内および兵庫県北部で、解体工事のエキスパートとして木造住宅から高層ビルまで手がける株式会社山田産業。同社では、すべての解体機をコベルコ機に統一。創業者の会長をはじめ、社長を含むオペレータ全員がそれらを駆使している。

代表取締役 山田豪人（ごうと）さん

10 自社の中間処理施設で活躍するコベルコ機。右手前のSK135SRDは、木材を焼却炉に投入する作業に従事。左奥のSK210Dは、主に木材を砕く作業に用いるほか、4階建てほどの現場に赴くこともある　11 コンクリート廃材を細かく砕く「ジョークラッシャー」。1日に1500tほどの廃材を40mm辺に処理する能力をもつ　12 左から山田さん、東田さん、スタッフの田中智之さん、山本公平さん、宮内亮さん、日比直樹さん

11

12

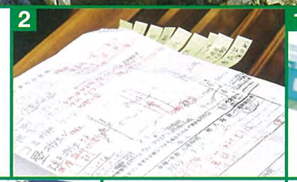

5 6 解体現場できれいに分別すれば、自社の中間処理施設に持ち帰った後の工程がスムーズに。残渣が紛れるなどして顧客や近隣住人に迷惑をかけるリスクも回避できる

8 個人宅の解体では、基礎コンクリートを露わにしてから解体して仕上げる。「遺跡の発掘調査並み」と山田さんも胸を張るほどの丁寧さが体現されている　9 JR鳥取駅構内における耐震補強工事の際、支障になる部分の撤去を担当した。作業中は現場の上を在来線が往来。限られたスペースで、在来線を支持するコンクリート柱を傷つけることなく解体したその現場は、同社の「魅せる解体」の代表作といえる

7 山田さんと、妻で取締役のルミ子さん。15年1月に完成したばかりの新事務所にて

9

iNDrの静音性と操作性を生かし、スペースの限られた住宅地の現場で活躍するSK135SRD


2 日常業務の前後に行う打ち合わせの記録。気になる箇所があれば写真も添付し、社長からの注意事項などを共有。この積み重ねが日々の工事に効果を発揮している

1 オペレータ歴3年の東田健吾さん。「コベルコ機はレバーなどの配置にも配慮がされていて、疲れにくくて扱いやすいですね」

4 終業時には解体機を洗浄。機械も大事に扱う姿勢は、お客様や現場近隣の人々からの信頼性アップにつながっている

3 木造住宅の解体現場では木くずや土が機械の内部に侵入しがち。iNDr搭載のコベルコ機ならフィルタの丸洗いができ、手間なく故障を防止できる

3

日本海に面し山地も多い鳥取県の地形は、県外への移動に不利な部分も多い。そのため山田産業では、あえて職域を広げず、解体工事の専門性を高める道を選んでいる。

「2016年4月1日に施工される改正建設業法では、許可にかかる業種区分に解体工事業が追加されます。耐震化やアスベストの除去など、解体工事にも専門性が問われる時代の流れに沿った改正なので、当社でもこれに対応することが重要だと考えています」

こう語るのは、代表取締役の山田豪人さん。06年に先代社長の跡を継いだ2代目だ。社長就任後は苦しい時期もあったという。しかし、アスベスト除去工事への参入や、自社でのリサイクル体制の確立（産業廃棄物中間処理業追加品目許可取得）といった施策を展開。その結果、現在では解体工事の立案・計画から施工・収集運搬・処分までをこなす専門業者として、鳥取県内で広く認知（ℝ）されるにいたっている。

「こうしたワンストップ体制を確立したことで、低コストの解体工事を提案できるようになり、それが当社の強みになっています」（山田さん）

解体工事の品質向上にコベルコ機が貢献

この強みを支えると同時に、同社が最もこだわっているのが、〝解体品質〟だという。解体工事の品質とは、どういうことか。

1つは、スタッフ全員が専門性の高い提案をできることだ。同社では、今まで手がけた多種多様な案件からさまざまなノウハウを抽出し、作業マニュアルを作成。誰もが的確な提案をスピーディーに実践し、顧客の満足度向上につなげている。もう1つは、きめ細かい分別による作業の効率化。これには、コベルコの解体機が一役買っているそうだ。

「当社では、解体現場で廃材の細かい分別作業を行います。ビルならば鉄筋とコンクリートを細かく選り分け、木造住宅であれば木材と壁土を分別しています」（山田さん）

コベルコ機は、ロングアーム仕様でも数cm単位の操作が意のままにできると評する山田さん。そのため、機械で細かい分別を行う際の作業効率が格段にアップするという。機械で分別した後は、さらに人の手も使って残渣（ざんさ）をきれいに取り除くのが山田産業流だ。

こうした現場での徹底した分別作業は、手間がかかるようにもみえる。しかし、後に自社所有の中間処理施設で行う作業まで考慮すれば効率的。結果として、工事コストの削減にもつながっているという。

「建てる作業を逆再生するようにきれいに解体する、いわば〝魅せる解体〟にも注力しています。細かな分別作業には、解体後の現場を美しく見せる効果もあるので」（山田さん）

丁寧な仕事の姿勢から個人宅の解体依頼も増加

現場を整然と保つことは、計画通りに作業を進められるだけでなく、顧客や近隣住民に安心感を与えることにもなる。オペレータの東田健吾さんは、住宅地での解体作業には、コベルコ機が最適だと明言する。

「お客様や通りがかりの方が、解体作業に興味をもって足を止めることもあります。その際、iNDrを搭載したコベルコ機を使っていると『本当にエンジンがかかっているの？』と驚かれることも珍しくありません」（東田さん）

SK135SRDを洗いながら、そう語ってくれた。1日の作業を終えた後、解体機を磨くのも同社が大切にしている日課だ。

鳥取駅や大型ショッピングモールなど、多くの大規模工事の実績をもつ山田産業。それに加えて最近では、丁寧な仕事ぶりと、現場周辺環境への配慮が評判を呼び、個人顧客も急増しているそうだ。

その一方で、同社はリサイクル事業へも積極的に参加している。

「近い将来は、廃材である木材を、バイオマス発電やボイラーの燃料に再利用することも目指しています」（山田さん）

現在の好調と今後の明確な中長期戦略。この2つを、スタッフ一人ひとりの高い意識とコベルコ機が支えているようだ。

Company Profile

株式会社山田産業

- ●所在地：鳥取県鳥取市里仁 553-3
- ●TEL：0857-28-3148
- ●創業：1977 年
- ●事業内容：解体工事、アスベスト除去工事、産業廃棄物処分業、産業廃棄物収集運搬業、土木工事および建築工事
- ●従業員：12名

文・辻内 圭　撮影・三浦伸一